



読字 原田 鏡

No. 681

2012/10/5



発行所
日本中国友好協会
〒110-0005 東京都千代田区
有明1-1-1 1F (有明ビル)

日中友好協会
岡山支部
〒700-8256
岡山市東区3-8-30 514
TEL:086(272)-3010
郵便番号1100
01250-04-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8511
倉敷市遊島中央1-8-4
(宮地方)
TEL/FAX:086(446)-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rzhong.biz/>
メールアドレス
rzhong86@hotmail.co.jp

9.18 柳条湖事件81周年 街頭宣伝と

「残留孤児」の配偶者の生活支援を求める署名

はじめに

9月18日、天満屋アリスの広場前で日中友好協会岡山支部と中国帰国者の尊厳を回復する岡山の会は、柳条湖事件(満州事変)のビラを配布しました。また、中国残留孤児の配偶者の生活支援を求める請願署名「も行いました。この街頭宣伝には、それぞれの団体から4人づつ計8人が参加しました。

一部若者の破壊・暴力行為は許せない!

最初にマイクを握った私は、尖閣諸島(中国名・釣魚島)問題をめぐる中国国内のデモなどの抗議行動に触れ、次のように述べました。デモ参加者の一部若者による在在の中国の日本企業や日本人に対する破壊・暴力行為及び物品の略奪は絶対に許すことはできない。これまで日中不再戦の旗を高く掲げ文化活動(注1)及び中国帰国者の支援活動に取り組んできた団体として、残念でならない。積み上げてきた友好・信頼



第一は、40年前に締結した日中国交回復時の共同声明の精神です。

とくに第六項の平和5原則(注2)の上にならば、両政府は、右の諸原則および国際連合憲章の原則に基づき、

日本国および中国が、相互の関係において、すべての紛争を平和的手段により解決し、武力または武力による威嚇に訴えないことを確認する。は重要です。

第二は、歴史認識の問題です。

日本政府及び国民は、1931年の柳条湖事件に端を発し、1937年の盧溝橋事件を機に中国全土に侵略を拡大し、各地で残虐行為を繰り返して、中国人民の心を大きく傷つけた歴史的事実を真剣に反省することです。

これら観点に立つて、軍事

関係を台なしにするものである。話しているうちに興奮し、声が大きくなりました。

侵略を反省し、

平和5原則に立つて

次に、日中間の領土など諸問題を考えていく上で、大切な次の2点を強調しました。

的に対応ではなく平和的な外交努力による解決が求められています。

高杉さんの訴え

私の次にマイクを持った高杉さんは、次のように訴えました。

私は中国残留孤児の高杉久治です。いま私たち孤児が一番心配しているのは、配偶者のことです。私たちが亡くなったあとに、配偶者が日本で安心して生活できるように現在の支援法(注3)の改正を求める署名への協力を呼びかけました。

草の根の交流を

今回の街頭宣伝は、右翼の妨害があるのではとか、通行人の視線が厳しいのではないかと心配しながら行いました。約1時間の行動でビラ約300枚を配り、署名を60筆集め、無事に終わることができほっとしました。この行動をRSKが最後まで熱心に取材しました。

私たちの日中友好協会は、文化大革命(1966年〜76年まで)を批判し、中国との交流が断絶された時も前述の日中不再戦や文化活動をつづけていきました。

今後も日中関係がどのような事態になろうとも、両国民の友好・交流を願って草の根の交流をつづけていきます。

日中友好協会岡山支部

小林軍治

(注1) 日中友好協会岡山支部の文化活動(太極拳・中国語講座・中国料理教室・きり絵・中国映画の上映など)

(注2) 平和5原則(①領土・主権の尊重 ②相互不可侵

③内政不干渉 ④平等・互恵

⑤平和共存)
(注3) 現在の支援法の問題点(現在の支援策では、中国残留孤児が死亡した場合、その配偶者は「残留孤児」本人が受給していた満額の国民年金がなくなってしまうため、その生活は生活保護とほぼ同水準のものとなってしまいます。残留孤児たちは自分の死後の配偶者の生活に対して大きな不安を抱えています。



10月20日[土] 14:00~16:00 参加費 無料

会場 水島公民館(文化センター) 会議室

お問い合わせ先:日本中国友好協会倉敷支部

電話:FAX:086-446-2711

大切な存在

一一芳田日本語学習講座一一

はじめに

9月18日(火)、芳田公民館で日本語学習講座の生徒鄭麗敏さんの送別会を、12人の参加で開きました。中国料理(ト

マトと卵の炒め物、酸菜と豚肉の煮物、干豆腐サラダ)とおにぎりをみんなでつくり、みんなで食べました。たいへん美味しかったです。食事のあとで先生・生徒が一人づつ心のこもった「送るこトバ」を述べました。麗敏さんから次のようなお礼とお別れのあいさつがありました。

孤独な日々

この教室は私にとって大切な存在です。2010年11月、初めて日本に来ました、1年10カ月になりました。

最初の5カ月は人生で最悪の時間でした、日本語も全然わからないし、友達もないからです。2010年の12月最愛の母が急になくなりました。つらくて悲しかったです。母の最後の顔を見るために中国へ帰りまして、2度目に日本に来た時、私はもつと暗くて寂しくなりました。



前列左から二人目が鄭麗敏さん

日本語教室との出会い

それから、2011年5月、小林先生に会いました。その日、小林先生は、主人と私を高島公民館へ案内してくれました。

家からとても遠いので勉強できなかつたです、残念でした。数日後、小林先生から電話がありました、家の近くの岡輝公民館で新しい教室を始めたいと言

われました、うれしかったです。それから山根夫妻と3人で勉強していました、先生は宇垣先生と貝吹先生と小林先生の3人で、人数が少ないですけど楽しかったです。

この教室は普通の日本語の授業だけじゃなくて日本の礼儀、社会のマナー、おもしろい事などいろいろ勉強できます。昨年の秋、先生と生徒がいっしょに真庭市へ旅行しました。毎週の火曜日は私の一番楽しい時間です。

先生も生徒も大好き

2011年の9月に教室は芳田公民館に引越しました。人数がだんだん増えて、前よりにぎやかで楽しくなりました。

友達もできましたし、日本語も少しずつ上手になってきました。ずっとこの教室で勉強を続けていこうと思っていました。しかし主人が大阪に引越になりました、ここで別れなければなりません。でも心からこの教室と別れたくないです。70歳になっても元気な姿を

よく見せ、よく笑っている小林先生が大好きです。いっしょに倉敷で餃子を作ったり、旅行の写真を見せてくれたりします。

いつも優しく丁寧な説明をしてくれる宇垣先生が大好きです。いろいろなわからない事を教えてくれます。表現力が強くて字がきれいな貝吹先生が大好きです。いつもおしゃべりして30代みたいで若いです。

いっしょにいた時間が長くなかつたですけど、いろいろ教えてくれた三宅先生も大好きで

す。いっしょに勉強したり、笑ったりしたみんなが大好きです。

今後も日本語頑張

この教室は私の大切な存在です。小林先生、宇垣先生、貝吹先生、三宅先生は私にとって一生の先生です。これまでいろいろ大変お世話になりました。ありがとうございます。これからも私は頑張つて日本語の勉強を続けていこうと思います。何か分からなくなったら、またよ

西安旅行

②

谷川浩文

第一章 西安2日目

兵馬俑へは2日目に行った。

秦の始皇帝時代に皇帝と一緒に埋葬された無数の人や馬をかたどった素焼きの像である。これは圧巻である。実際のモデルは160cm余りらしいが実物はかなり大きいうえ、イケ面である。

面白い逸話があって、井戸掘りを請け負った人が井戸を掘っていて兵馬俑を発見し、余りのリアルな像が無数に出てきて慌てふためき、埋め直してよそを掘ったら又兵馬俑が出てきてまた怖くなって埋めて、最後は考古学者に報告して歴史的大発見であることが

揚がっていた。

級友が侃についていろいろ尋ねると「あなたも揚げてみるか?」と言われ侃糸を持たせてもらっていた。

高さを訪ねると300m以上の高さはゆうにあること。太極拳をする者もいたり、Mr. オクレ似の人もラニンングをしていた。TVで見る中国の光景とまったく同じであった。抗議デモは西安でも大規模に起こつたらしいが、そんなに影響はこの時点では無かつた。

つづく



次回の新聞送付作業は10月11(木)午後1時半、民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

石川和
竹内内
竹内製
坪井井
三垣垣